

【大淀川の保全から始まる地域づくり】

特定非営利活動法人大淀川流域ネットワーク（宮崎市）

代表者：代表理事 杉尾 哲
結 成：平成16年（活動歴20年）

1 概要

大淀川を昔の姿に戻すことを目指し、住民や学校、企業など地域を巻き込みながら、長年にわたり環境保全や環境教育など幅広い活動を展開。保全活動の重要性や自然の豊かさの伝承に寄与するとともに、郷土愛の醸成に多大な貢献をした。



宮崎市内の小学生を対象とした環境教室



カヌーを利用した絶滅危惧種の観察

2 活動のポイント

○先進性・独自性

タコノアシなど11種の絶滅危惧種の保全活動は、地域住民を巻き込んで取り組んでおり、地域一体となって生育環境の改善を図っている。

○継続性

大淀川流域に関する広報誌を途切れることなく発行し続け、大淀川を昔の姿に戻すことを目指し、20年にわたり環境保全、環境教育に取り組んでいる。また、持続的な活動を行うことができるよう後継者育成にも力を入れている。

○発展性

「大淀川流域一斉クリーンアップ」活動は、学校や企業等から1,000人を超える応募があるなど広がりを見せている。また、上流域の団体と連携するなど活動範囲を拡大している。

○自主性

環境保全に対する意識の高揚を図り、環境にやさしい社会づくりを推進することを目的に、クリーンアップ活動の実施やホームページ・広報誌を通したPRを積極的に行っている。

○協働性・連携性

「大淀川流域一斉クリーンアップ」活動は、上流域の河川協力団体と連携しながら、河川全域での清掃活動となっている。また、行政との連携による環境教育活動やイベント開催を行っている。

○効果

地域住民や企業、行政等との多種多彩な連携による協働事業を推進し、河川環境保全はもとより、自然体験・フィールド訓練を通して、川の楽しさや水辺の安全利用など川づくり・地域づくりの魅力を伝え、郷土愛の醸成に寄与している。

3 その他

【過去の受賞歴】

- ・平成24年 宮崎河川国道事務所功労表彰（国土交通省九州地方整備局）
- ・平成26年 地域環境保全功労者表彰（宮崎県）
- ・平成26年 九州地方整備局国土交通行政功労 局長表彰
- ・平成27年 水資源功績者表彰 国土交通大臣表彰
- ・平成30年 2017年度MRT環境賞大賞
- ・令和3年 地域環境保全功労者等 環境大臣表彰（環境省）
- ・令和6年 市制100周年記念市政功労者表彰（宮崎市）
- ・令和6年 美しい宮崎づくり知事表彰 水と緑の景観賞（宮崎県）

【移住支援をきっかけとした住みやすいまちづくり】 特定非営利活動法人一滴の会（高千穂町）

代表者：理事長 市野 辰廣

結 成：平成19年（活動歴18年）※平成24年から特定非営利活動法人

1 概要

国の移住政策が「地方創生」の一環として本格化する前から移住定住支援に取り組み、移住相談はもとより、移住後の小さな困りごとや地域とのコミュニティ形成など、アフターフォローを丁寧に行うことで、高い定住率につなげ、地域住民と移住者、多世代間の交流を促進し、住みやすい地域の造成に多大な貢献をした。



移住者用空き家の
片付け



一滴の会 会員

2 活動のポイント

○先進性・独自性

移住支援制度が広がる10年以上前から、移住定住支援に取り組んでおり、移住者が入居する際には、移住者と地域の代表者が面談する場を設定するなど、スムーズに地域になじめるよう工夫し、高い定住率につなげている。

○継続性

若い世代や実際の移住者を会員に加えることで、移住者が抱える不安や問題への対応など、質の高い相談体制を維持し続けている。

○発展性

公民館長を通じて地域住民の移住や空き家に対する理解を求めており、当初は移住者の受け入れに消極的だった地域が、公民館独自で空き家対策を行うようになるなど、地域全体での取組として広がりを見せている。

○自主性

移住後には、小さな困りごとの相談受付や集落の奉仕作業の手順・郷土料理の作り方を伝授するなどのアフターフォローを行い、移住者の不安を取り除く心の支えとなっている。

○協働性・連携性

職業や世代もバラバラな構成員が一体となって取り組んでおり、困りごとに関して迅速に対応している。また、地区の公民館から空き家情報を提供してもらうなど公民館との連携により、移住支援体制を構築している。

○効果

平成19年から現在まで116世帯の移住者を迎え入れた。統計を取り始めた平成27年度から令和5年までで72世帯を受け入れ、59世帯が現在も定住している（定住率：82%）。また、移住に関する問い合わせは月平均で5件から18.5件と年々増加し、実際に高千穂を訪れた方は、月平均0.8件から7.2件に増加した。

その他、若い移住者がいることで口コミで、同世代の移住者が増える地区もあり、移住者が積極的に奉仕に関わるなど好循環が生まれている。

3 その他

移住・定住支援の他に、キャンプ場の管理運営や観光地・観光道路の環境整備、災害時等のボランティア活動も積極的に行っている。

【紙芝居による世代を超えた感性の育成と郷土愛の醸成】

紙芝居まねきねこの会（都城市）

代表者：久保田 哲寛

結 成：平成27年（活動歴9年）

1 概要

紙芝居をツールとして、圏域の物語にスポットをあてた地元中学校とのオリジナル紙芝居の制作や福祉施設・教育施設などへの訪問上演を通して、世代の垣根を越えたふれあいによる豊かな感性の育成や郷土愛の醸成に貢献をした。



紙芝居上演会



オリジナル紙芝居

2 活動のポイント

○先進性・独自性

都城圏域に眠る偉人や先人の偉業や物語を掘り起こし、紙芝居の創作活動や上演に使用する道具の開発を通して、次世代への伝承や郷土愛の醸成を図っている。

○継続性

結成当初から訪問上演や都城市独自の紙芝居の制作活動を行うとともに、市内外の講演会やイベントに積極的に参加し続けている。また、継続的な上演会が行えるよう、会員の技術向上や新たな読み手の育成に力を入れるなど普及活動を行っている。

○発展性

長年の取組は都城市内にはとどまらず、市外の団体から紙芝居講座の依頼があるなど、圏域を超えて普及活動を行っている。将来的には、圏外交流も視野に入れ都城圏域に紙芝居を広めている。

○自主性

独自に計画した紙芝居上演普及活動の10ヵ年長期計画に基づき、福祉施設や社会教育施設への訪問上演やイベントでの講演などをボランティアで精力的に実施している。

○協働性・連携性

地元中学校の美術部との連携による紙芝居の制作活動や地区住民との協働による紙芝居道具の開発を行っている。また、都城市内における公共機関や民間イベントにも継続的に参加しており、協働による紙芝居上演を継続的にやっている。

○効果

都城圏域の物語を紙芝居にすることにより、子どもから大人まで誰にでもわかりやすく、文化や伝統を伝承する機会を作り、郷土愛の醸成に貢献している。また、観客との共感やふれあいを通して、豊かな感性の育成や健康寿命の延伸（認知症予防等）に寄与している。

3 その他

【近年の上演実績】

令和3年度	回数：317回	観客数：11,784人
令和4年度	回数：435回	観客数：15,627人
令和5年度	回数：507回	観客数：21,572人

【過去の受賞歴】

令和6年 小さな親切運動 都城支部実行賞

【オリジナル紙芝居】

- ①吉尾町誕生のおはなし
- ②山津波
- ③沖水川の役割（作成中）